

シンポジウム「途上国開発と地理学」発表要旨

問題提起「開発の三角形」の視座から

堀 信 行 (東京都立大学理学研究科)

途上国における開発の問題は、地域社会、場所、他者という三つの視点とそれら相互の関係から考えると理解しやすいであろう。「地域社会」は、地域文化、地域住民といった地域のソフト面を構成する要素群からなる。「場所」は、開発が行われる国や地方の地理的な場所、および自然環境など場所に関わるハードな要素群からなる。また「他者」とは、開発に関わっている諸国家や国際機関等からなる。なお「地域社会－場所－他者」それぞれの視点の相互関係を基にした分析概念として「開発の三角形」を提唱したい。「開発の三角形」は、時代の流れの中でその形状を変えてきた。またこの三角形の基本構造は、スケールを変えても成り立っている。本シンポジウムの主題でもある地理学は、「開発の三角形」を構成する「地域社会－場所－他者」相互の関係を考究するところに学問としての立場があるのではないか。また、この立場こそが開発問題を深みにおいて理解し、展望を得る視座になるであろう。